

編集後記

「にんげんは進歩しているのだろうか」。子どもが犠牲になる事件が報道されるたびに、素朴な思いが込み上げます。八月号で掲載された本田和子先生のご講演の「子ども嫌いの時代」という言葉も、悲しいけれど納得してしまいました。

*

大学時代を共にした遠藤めぐみさんから、自作の詩集『こいぬののぶちゃん』（私家版）が届きました。そのあとがきに、「児童学科で、わたしたちは、幼いひとたちが幸せに生きることできるように、ということを学びました。つまり、男も女も、障害のあるひととも、お年寄り

も、すべてのにんげんがあかるく、おだやかな、やさしい気持で暮らせる世の中にしませう、という希望です。この作品は、そんな苗床から生まれました。」とありました。彼女が自分の中で大切にできたことを言葉にしてもらえたことに感謝の気持ちでいっぱいになり「わたしは」ではなく「わたしたちが」と記されていることに、彼女の優しさを思いました。

*

『児童学からの出発』が始まりました。首藤先生が、主旨を書いてくださいましたが、様々な活動を読者の皆さんとも共有し、子どもたちの幸せにつなげられたら、と思います。嘆くだけではなく、「わたしたちは希望を持ち続けたいと思います。

(河合)

幼児の教育

第一〇四巻 第九号

(二〇〇五年九月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十七年九月一日

編集兼発行人 浜口順子

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8600 東京都文京区大塚二二一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五二二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―一一一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。